Title	第 12 回 ピア・スーパービジョンの報告
Author(s)	秀村, 智香
Citation	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.23-No.2, 2013.12 : 34-35
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=5028
Rights	

聖学院学術情報発信システム ： SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE

第12回ピア・スーパービジョンの報告

1．参加の動機

今回は、田村綾子先生の「スーパービジョンの魅力～お互いの元気を育む時間～」というお話と、実際にスーパービジョンを受けている高橋成子さんのお話を聞いてみたいと思い、参加しました。

2．田村綾子先生・高橋成子さんのお話を聞いて

田村先生からは「スーパービジョンの魅力～お互いの元気を育む時間～」というテーマで、なぜスーパービジョンが必要なのか、スーパービジョンの流れ、実際の事例についてお話がありました。

ソーシャルワーカーは､ただ｢人に親切にしたい｣｢ありがとうと言われたい｣だけでやってはいけない職業である。利用者を「生活者」として捉え、自己決定の尊重や権利擁護、相談・助言などソーシャルワーカーとして大事にすることは同じだが、それぞれの職場での業務の中で、ソーシャルワーカーらしい支援を目指していくことが大事である。

また、そのためには、自分の実践を理論化していき、専門性に照らして再点検することが大切というお話を聞いて、どの現場でもソーシャルワーカーとして大切にしていくことは同じことですが、普段の業務ではどうだろうかと考えた時に、ただ単に業務をこなすだけになってしまっているのではないかと思い、普段から、個々のケースについて振り返って再点検することが大切だと感じました。

上段（講演）：田村綾子准教授、下段：PSV参加者

また、実際の流れや事例を通して、より具体的に知ることができました。経験年数を重ねると、このように感じて良いのか、小さなことで悩んで良いのかと、自分の未熟な部分を出すのが不安になる時があります。だからこそ、安心して語れる場所を職場内でも作っていけたらとあらためて感じました。

高橋さんからは、スーパービジョンを受けようと思った理由や期待していたこと、実際に受けてみて得たこと・変化したこと等のお話を聞くことができました。職場では利用者への関わりを振り返る時間が少ない・一人で抱え込んでしまうため、頑張ってしまい燃え尽きやすいなど、自分自身が普段から悩んでいることでもあるので、共感できる部分が多くありました。スーパービジョンを受けて、もう一度自分自身と向き合おうと思えた。また、気持ちを理解してもらえたことで気持ちの整理がつき、職場の同僚と一緒に頑張っていけるようになったなど、とても貴重なお話を聞くことができました。

3．ピア・スーパービジョンに参加して

最初に全員で自己紹介をしました。学生・卒業生・卒業生以外で福祉の仕事をしている方が参加していました。その後、４～５人のグループで話をしました。

私が参加したグループは、学生と就職してから、１･２年目の人が多く、新人ならではの職場で困っていることや「こんな時はどうしたらいいのだろう」という思いを共有することができました。普段の業務の中では「振り返り」や「語る」時間がほとんどなく、ソーシャルワーカーを続ける自信

左奥：中村磐男教授、中央奥：牛津信忠教授、
右奥：相川章子教授

が無くなり、それが支援に影響して、また自信を無くすという繰返しになることがあります。

ピア・スーパービジョンに参加して参加者の皆さんと語り、思いを共有して、「やっぱりソーシャルワーカーって素敵な仕事、これからも続けていきたい！」と元気をもらい、自分の職場に戻れました。ピア・スーパービジョンに参加してお話をしてくださった先生方・皆さんに感謝です。ありがとうございました。

（文責：秀村智香［ひでむら・ともか］ふれあい鶴見ホスピタル勤務・社会福祉士　2005年度聖学院大学人間福祉学科卒業）

補足
（木下　元［きのした・はじめ］聖学院大学 学事局学術支援部 研究支援課長 謙 出版会事務課長）